二〇二二年六月一八日

指尺で胡瓜を測る畑日誌　かかし
まどろみに母の呼ぶ声明易し　わかば
陽に倦みてやや腰折れの四葩かな　ぽんこ
犬小屋に吊るす小さな青簾　よう子
青梅のほのと紅さす一の宮　よし子
軒低き花街のカフェ四葩咲く　なつき
夕闇に白をこぼせり花南天　む　べ
五月雨や渡し場跡の水漬き舟　愛　正
蛍火の暫くはわがたなごころ　よう子
雷去りて青天井の戻る池　む　べ
虚子句集晒し初心に返りけり　よし子
濃く淡く棚田づくりの菖蒲園　はく子
この沢の千の蛍の無音界　よし子
短夜の星降る山の旅寝かな　わかば
風薫る古代の丘に道ありき　む　べ

毎週句会秀句・みのる選・二〇二二年六月一九日